

# 柴田学園大学

令和5年度 入学試験問題

生活創生学部

こども発達学科・フードマネジメント学科

学校推薦型選抜

小論文題目

一般選抜 前期

国語／英語

一般選抜 後期

国語／英語

# 令和5年度 入学者選抜

柴田学園大学 こども発達学科 フードマネジメント学科

学校推薦型選抜試験

## 小論文問題

(令和4年11月19日)

(注意：各問題について、解答はすべて解答用紙に記入すること。)

## 問 題

### 問題 1

文部科学省の調査「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(資料 1)において、学校における「暴力行為」はどのように定義されていますか。120 字以内で要約して記述してください。

### 問題 2

文部科学省の調査「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(資料 2)における「学年別加害児童生徒数のグラフ (令和 3 年度)」からどのようなことが読み取れますか。後に続く文章も参考にしながら、50 字以内で記述してください。

### 問題 3

文部科学省刊行の『生徒指導提要』では、児童生徒の問題行動について留意すべき視点の一つとして資料 3 の文章を挙げています。現在、児童生徒の問題行動については、教師を目指す者のみならず、社会人や大人としてきちんと対応していく必要があります。そうしたことや資料 3 の内容も踏まえながら、問題行動に対してあなたはどのように対応していきたいか、また、あなたが大事だと考えることなどを160 字以内で記述してください。

### 問題 4

同上の『生徒指導提要』では、発達障害がある児童生徒の問題行動について留意すべき視点の一つとして資料 4 の文章を挙げています。現在、発達障害がある児童生徒に対しては「ノーマライゼーション」の観点から、教師を目指す者のみならず、社会人や大人として「ともに生きる」「共生社会」を目指して行動していくことが必要とされています。そうしたことや資料 4 の内容も踏まえながら、発達障害がある子どもの指導に対してあなたはどのように対応していきたいか、また、あなたが大事だと考えることなどを160 字以内で記述してください。

※ノーマライゼーション：障害者も健常者と同様の生活が出来るように支援するべき、という考え方

## 小論文問題

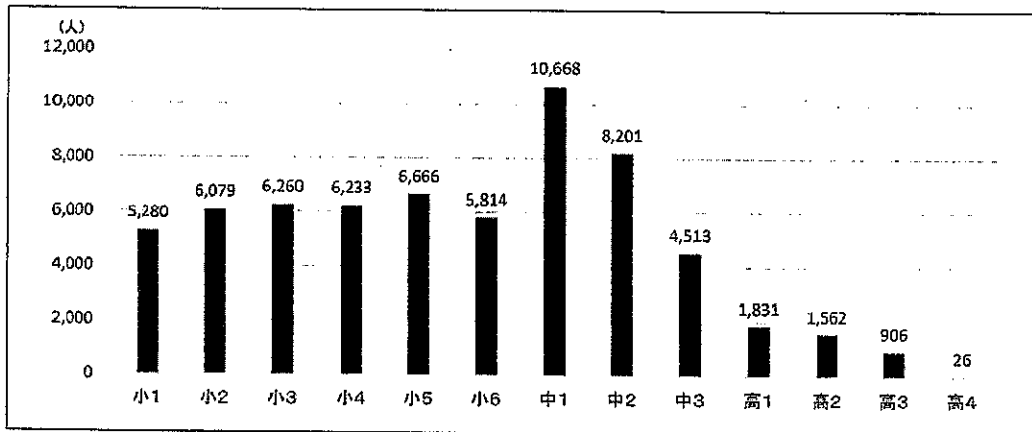
次の資料（1～4）を読んで、後の問題（1～4）に答えなさい。

**資料1** 「暴力行為」とは？ （出典：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」）

「暴力行為」を「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」として調査。なお、本調査においては、当該暴力行為によってけががあるかないかといったことや、けがによる病院の診断書、被害者による警察への被害届の有無などにかかわらず、暴力行為に該当するものを全て対象とすることとしている。

**資料2** 「学年別加害児童生徒数のグラフ（令和3年度）」

（出典：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」）



「小中連携、一貫教育に取り組む学校、市町村においては、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等の生徒指導上の諸問題につながっていく事態等（いわゆる中1ギャップ）に直面し、小学校から中学校への接続を円滑化する必要性を認識し、小中連携、一貫教育に取り組み始めたケースが見られる。」

（出典：文部科学省「小中連携、一貫教育の推進について」）

### 資料3 児童生徒の問題行動について留意すべき視点（抜粋）①

（出典：文部科学省『生徒指導提要』第6章）

#### ○小学校で問題行動の予兆があること

中学校や高等学校で問題行動の原因を振り返ってみると、小学校段階でその予兆がある場合があります。喫煙、飲酒、万引き、暴力行為などは小学校高学年から始まっている場合も見られます。「見て見ぬ振りをする。」「小学生だからまあいいではないか。」と安易に考えて問題を放置し、毅然とした指導をしていない場合は、思春期になり再発する場合があります。高等学校では、おとなしく特に目に付く問題行動はなかったものの、小学校・中学校段階で何らかのつまずきや特異な行動などの予兆があった場合があります。個人情報に留意して、幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校間の連携を行うことが必要です。

### 資料4 児童生徒の問題行動について留意すべき視点（抜粋）②

（出典：文部科学省『生徒指導提要』第6章）

#### ○発達障害と問題行動

LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害の特性が、直接の要因として問題行動につながることはありません。発達障害の特性により生じる学力や対人関係の問題に対して、周りがそれと気づかずに、やる気の問題や努力不足という見方で無理強いをしたり、注意や叱責が繰り返されたりすると、失敗やつまずきの経験だけが積み重なります。こうしたことがきっかけとなり、ストレスや不安感の高まり、自信や意欲の喪失、自己評価、自尊感情の低下を招くことになり、さらなる適応困難、不登校や引きこもり、反社会的行動等、二次的な問題としての問題行動が生じることがあります。

※LD：学習障害

※ADHD：注意欠陥・多動性障害

令和5年度 入学者選抜  
柴田学園大学 学校推薦型選抜試験

【 解 答 用 紙 】

\_\_\_\_\_ 学科 受験番号 \_\_\_\_\_ 番

**問題1** 120字以内で要約して記述してください。


20字×6行

**問題2** 50字以内で記述してください。


20字×3行 \部分には記述しないこと。

令和5年度 入学者選抜  
柴田学園大学 学校推薦型選抜試験

【 解 答 用 紙 】

\_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 受験番号 \_\_\_\_\_ 番

問題3 160字以内で記述してください。


20字×8行

問題4 160字以内で記述してください。


20字×8行

# 令和5年度入学者選抜

## 柴田学園大学

こども発達学科・フードマネジメント学科

### 一般選抜（前期）試験問題

# [ 国 語 ]

（令和5年2月4日）

注意 ① 各問題の解答はすべて解答用紙に記入すること。  
② 各問題の解答は試験後回収するので、持ち帰らないこと。



□ 次の文章を読んで、それぞれの問いに答えよ。

猫の耳というものはまことに可笑<sup>おかし</sup>なものである。薄<sup>うす</sup>べったくて、冷<sup>ひや</sup>たくて、竹の子の皮のように、表には絨<sup>じゅうもう</sup>毛が生えていて、裏はピカピカしている。硬<sup>かた</sup>いような、柔らかいような、なんともいえない一種特別の物質である。私は子供のときから、猫の耳というと、一度\*「切符切り」でパチンとやってみたくて堪<sup>た</sup>らなかつた。これは残酷な空想だろうか？

否。まったく猫の耳の持っている① 一種不可思議な不<sup>ふ</sup>稜<sup>りやう</sup>力<sup>りき</sup>によるのである。私は、家へ来たある謹<sup>きん</sup>厳<sup>げん</sup>な客が、膝<sup>ひざ</sup>へあがって来た仔<sup>こ</sup>猫の耳を、話をしながら、しきりに抓<sup>つか</sup>っていた a コウケイを忘<sup>わす</sup>れることができない。

このような疑惑は思いの外に執念深いものである。「切符切り」でパチンとやるというような、\*見<sup>み</sup>戯<sup>ぎ</sup>に類した空想も、思い切<sup>き</sup>って行為に移さない限り、われわれの\*ア<sup>あ</sup>ニ<sup>に</sup>ユ<sup>ゆ</sup>イのなかに、外<sup>は</sup>観<sup>くわん</sup>上の年<sup>ねん</sup>齢<sup>れい</sup>を遙<sup>はる</sup>かにながく生き延<sup>のび</sup>びる。とつくに分別のできた大人が、今もなお熱心<sup>ねつしん</sup>に——厚<sup>あつ</sup>紙<sup>し</sup>でサ<sup>さ</sup>ン<sup>ド</sup>ウ<sup>ウ</sup>イ<sup>ツ</sup>チのように挟<sup>はさ</sup>んだうえから一<sup>いっ</sup>思<sup>し</sup>いに切<sup>き</sup>つてみたら？ ——こんなことを考えているのである！ ところが、最<sup>さい</sup>近<sup>きん</sup>、ふとしたことから、

② この空想の致<sup>し</sup>命<sup>めい</sup>的な誤<sup>ご</sup>算<sup>ざん</sup>が暴<sup>ばつ</sup>露<sup>ろ</sup>してしまつた。

元<sup>もと</sup>来<sup>らい</sup>、猫は兎<sup>うさぎ</sup>のように耳で吊<sup>つ</sup>り下<sup>くだ</sup>げられても、そう痛<sup>いた</sup>がらない。引<sup>ひ</sup>つ張<sup>は</sup>るということに対しては、猫の耳は奇妙な構造を持っている。というのは、一度引<sup>ひ</sup>つ張<sup>は</sup>られて破<sup>やぶ</sup>れたような i 痕<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>が、どの猫の耳にもあるのである。その破<sup>やぶ</sup>れた箇<sup>か</sup>所<sup>じょ</sup>には、また巧<sup>たく</sup>妙<sup>めう</sup>な補<sup>ほ</sup>片<sup>ぺん</sup>が当<sup>あ</sup>つていて、まったくそれは、創<sup>そう</sup>造<sup>ぞう</sup>説<sup>せつ</sup>を信<sup>しん</sup>じる人にとつても進<sup>しん</sup>化<sup>か</sup>論<sup>ろん</sup>を信<sup>しん</sup>じる人にとつても、不可<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>な、ii 滑<sup>くわ</sup>稽<sup>き</sup>な耳<sup>みみ</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>を失<sup>う</sup>わ<sup>な</sup>い。そしてその補<sup>ほ</sup>片<sup>ぺん</sup>が、耳を引<sup>ひ</sup>つ張<sup>は</sup>られるときの緩<sup>ゆる</sup>めになるにちがいないのである。そんなわけで、耳を引<sup>ひ</sup>つ張<sup>は</sup>られることに関しては、猫はいたつて平<sup>へい</sup>気<sup>き</sup>だ。それでは、圧<sup>あつ</sup>迫<sup>ぱく</sup>に対してはどうかというと、これも指<sup>ゆび</sup>でつまむくらいでは、いくら強<sup>つよ</sup>くしても痛<sup>いた</sup>がらない。さきほどの客のように抓<sup>つか</sup>つて見<sup>み</sup>たところ、ごく稀<sup>まれ</sup>にしか悲<sup>かな</sup>鳴<sup>な</sup>を發<sup>は</sup>しないのである。こんなところから、猫の耳は③ 不<sup>ふ</sup>死<sup>し</sup>身<sup>み</sup>のような疑<sup>ぎ</sup>いを受け、ひいては「切<sup>き</sup>符<sup>ぷ</sup>切<sup>ぎ</sup>り」の危<sup>き</sup>険<sup>けん</sup>にも曝<sup>ばく</sup>されるのであるが、ある日、私は猫と遊<sup>あそ</sup>んでいる最<sup>さい</sup>中<sup>ちゆう</sup>に、とうとうその耳を嚙<sup>か</sup>んでしまつたのである。これが私の発<sup>はつ</sup>見<sup>けん</sup>だつたのである。

噛まれるや否や、その下らない奴は、直ちに悲鳴をあげた。私の古い空想はその場で壊れてしまった。猫は耳を噛まれるのが一番痛いのである。悲鳴は最も微かなところからはじまる。だんだん強くするほど、だんだん強く鳴く。\*Crescendo のうまく出る——なんだか木管楽器のような気がする。

私のながらくの空想は、かくの如くにして消えてしまった。しかしこういうことにはきりがないと見える。この頃、私はまた別なことを空想しはじめている。

それは、猫の爪をみんな切ってしまうのである。猫はどうなるだろう？ おそらく彼は死んでしまうのではなからうか？

いつものように、彼は木登りをしようとする。——できない。人の裾を目がけて跳びかかる。——異う。爪を研ごうとする。——なんにもない。おそらく彼はこんなことを何度もやってみるにちがいない。そのたびにだんだん今の自分が昔の自分と異うことに気がついてゆく。彼はだんだん自信を失ってゆく。もはや自分がある「高さ」にいるということにさえブルブル慄えずにはいられない。「落下」から常に自分を守ってくれていた爪がもはやないからである。彼はよたよたと歩く別の動物になってしまう。遂にそれさえしなくなる。絶望！そして絶え間のない b キョウフの夢を見ながら、物を食べる元氣さえ失せて、遂には——死んでしまう。

爪のない猫！ こんな、便りない、哀れな心持のものがあるらうか！ 空想を失ってしまった詩人、早発性\*痴呆に c オチイった天才にも似ている！

この空想はいつも私を悲しくする。その全き悲しみのために、この結末の iii 妥当であるかどうかということさえ、私にとっては問題ではなくなってしまう。しかし、はたして、① 爪を抜かれた猫はどうなるのだらう。眼を抜かれても、髭を抜かれても猫は生きているにちがいない。しかし、柔らかい\*蹠の、\*鞣のなかに隠された、鉤のように曲った、\*七首のように鋭い爪！ これがこの動物の活力であり、智慧であり、精霊であり、一切であることを私は信じて疑わないのである。

ある日私は奇妙な夢を見た。

X——という女の人の私室である。この女の人は平常可愛い猫を飼っていて、私が行くと、抱いていた胸から、いつもそいつを放して寄来するのであるが、いつも私はそれに辟易するのである。抱きあげて見ると、その

仔猫には、いつも微かな香料の匂いがしている。

夢のなかの彼女は、鏡の前で化粧していた。私は新聞かなにかを見ながら、ちらちらその方を覗き込んでいたのであるが、アツと驚きの小さな声をあげた。彼女は、なんと！ 猫の手で顔へ白粉を塗っているのである。私はソツとした。しかし、なおよく見ていると、それは一種の化粧道具で、ただそれを猫と同じように使っているんだということがわかった。しかしあまりそれが不思議なので、私はうしろから尋ねずにはいられなかった。

「それなんです？ 顔をコスっているもの？」

「これ？」

夫人は微笑とともに振り向いた。そしてそれを私の方へ抛って寄来した。取りあげて見ると、やはり猫の手なのである。

「いったい、これ、どうしたの！」

訊きながら私は、今日はいつもの仔猫がいないことや、その前足がどうやらその猫のものらしいことを、閃光のように了解した。

「わかっているじゃないの。これはミエルの前足よ」

彼女の答えは d ベイゼンとしていた。そして、この頃外国でこんなのが流行するというので、ミエルで作って見たのだというのである。あなたが作ったのかと、内心私は彼女の残酷さに舌を巻きながら尋ねて見ると、それは大学の医科の \* 小使が作ってくれたというのである。私は医科の小使というものが、v 解剖のあとの死体の首を土に埋めて置いて \* 罎を作り、学生と e ビミンの取引をするということを聞いていたので、非常に嫌な気になった。何もそんな奴に頼まなくたっていいじゃないか。そして女というものの、そんなことにかけての、無神経さや残酷さを、今更のように憎み出した。しかしそれが外国で流行っているということについては、自分もなにかそんなことを、婦人雑誌か新聞かで読んでいたような気がした。――

猫の手の化粧道具！ 私は猫の前足を引つ張つて来て、いつも独り笑いをしながら、その毛並を撫でてやる。彼が顔を洗う前足の横側には、毛脚の短い \* 絨氈のような毛が密生していて、なるほど人間の化粧道具にもなりそうなのである。しかし ② 私にはそれが何の役に立とう？ 私はゴロツと仰向きに寝転んで、猫を顔の

上へあげて来る。二本の前足を掴んで来て、柔らかいその蹠を、一つずつ私の眼蓋にあてがう。快い猫の重量。温かいその蹠。私の疲れた眼球には、しみじみとした、③「この世のものでない休息」が伝わって来る。

仔猫よ！ 後生だから、しばらく踏み外さないでいろよ。お前はすぐ爪を立てるのだから。

(梶井基次郎『愛撫』による)

- \* 切符切り (乗車・入場などの際に) 切符を確認して切ること。
- \* 見戯 子供の遊び。
- \* アンニョイ 心が晴れず、けだるいこと。倦怠。
- \* Crescendo クレッシェンド。「次第に強く」の意。
- \* 痴呆 脳の老化などで知能が低下した状態。認知症。
- \* 蹠 足の裏。ネコなど、動物の足裏にある丸く盛り上がった無毛の部分。
- \* 鞘 刃物の刀身の部分を納める筒。
- \* 七首 つばのない短刀。
- \* 小使 (学校・会社などで) 雑用に従事する人。用務員。
- \* 髑髏 風雨にさらされて白骨になった頭蓋骨。しゃれこうべ。
- \* 絨氈 毛で編んだ敷物の意。

問一 二重傍線部 a と e のカタカナを漢字で書け。

問二 二重傍線部 i と v の漢字によみがなをつけよ。

- 問三
1. 太線部① 「一種不可思議な示唆力」と同じ意味の表現を十五字で抜き出さない。
  2. 太線部② 「この空想の致命的な誤算が暴露してしまった」行為を説明しなさい。
  3. 太線部③ 「不死身のような疑い」を受けた理由について、二つ述べなさい。

問四 波線部① 「爪を抜かれた猫はどうなるのだろうか」という問いに対する作者の答えと、その理由を合わせて五十文字以内にまとめなさい。

問五 波線部② 「私にはそれが何の役に立とう」から作者のどんな気持ちが読み取れるか。

問六 波線部③ 「この世のものでない休息」をわかりやすく具体的に説明しなさい。

□ 次の文は『徒然草』(九十二段)の文章である。それぞれの問いに答えよ。

ある人、弓射る事を習ふに、\*もろ矢をたばさみて的に向ふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つ事

a なかれ。後の矢を頼みて、始めの矢に\*なほざりの心あり。毎度ただ\*得失なく、 a この一矢に定むべし

と思へ」と b いふ。わづかに二つの矢、師の前にて、一つをおろかにせんと思はんや。\*懈怠の心、i 自

ら知らずといくども、師これを知る。この戒め、 b 万事にわたるべし。

\*道を学する人、夕には朝あらんことを思ひ、朝には夕あらんことを思ひて、 ii 重ねてねんころに修せ

んことを期す。いはんや\*一刹那のうちにおいて、懈怠の心ある事知らんや。 c 何ぞ、ただ今の一念にお

いて、直ちにする事の甚だ難き。

\* もろ矢をたばさみて 一本の矢を持つて。(初めに射るのを早矢、後のを弟矢という)

\* なほざりの心 いいかげんにする(おろそかにする)心。

\* 得失なく 当たるかはずれるかということ考えずに。

\* 懈怠の心 怠ける心。

\* 道を学する人 道を修行する(学ぶ)人。

\* 一刹那 きわめて短い時間。

問一 太線部 a、太線部 bにある「べし」の意味を、①～③から選べ。

- ① 推量 ② 意志 ③ 命令

問二 波線部 i、iiの部分を口語訳せよ。

問三 1. 二重傍線部 a「なかれ」、b「いふ」の品詞と活用形をそれぞれ答えよ。

- ㊦ おぼし ↓ 動詞・連用形

2. 二重傍線部 c「何ぞ」は、どの言葉を修飾するか。

問四 傍線部「一つを」と思はんや」に対応する箇所を、後半部分から抜き出せ。

問五 この段で作者が述べた内容を二つに分け、それぞれ六十字以内でまとめなさい。

国語 解答用紙

柴田学園大学

学 科 ○ 印	こども発達 フー ジマ ント
受 験 番 号	

一 \* 70点

問一

a	b	c	d	e	各2点
---	---	---	---	---	-----

問二

i	ii	iii	iv	v	各3点
---	----	-----	----	---	-----

問三

1

5点
----

2

7点
----

3

①

②

9点
----

問四

7点
----

問五

10点
-----

問六

7点
----

二 \* 30点 各3点

問一

a	b	各3点
---	---	-----

問二

i	ii	各3点
---	----	-----

問三

1 a なかれ 各2点

品 詞	活用形	3点
-----	-----	----

b いふ 各2点

品 詞	活用形	2点
-----	-----	----

2 c 何ぞ

2点
----

問四

5点
----

問五

①

②

5点
----

得 点	点
-----	---

科目 学 ○ 印	達 も 発 達 フ ォ ー ム マ ト フ ジ メ ン ト
受験 番 号	験 号

一 \* 70点

問一	a 光景	b 恐怖	c 陥	d 平然	e 秘密	各2点
----	------	------	-----	------	------	-----

問二	i こんせき	ii こつけい	iii だとう	iv なが	v かいぼう	各3点
----	--------	---------	---------	-------	--------	-----

問三	1	なんともいえない一種特別の物質	5点
----	---	-----------------	----

2	耳を噛んでしまった行為(こと)	7点
---	-----------------	----

3	① 兎のように耳で吊り下げられても(引つ張られても)、そう痛がらないこと。 ② 圧迫に対しても、指でつまむくらいでは、いくら強くしても痛がらないこと。	9点
---	--------------------------------------------------------------------------------	----

問四	鋭い爪が猫の活力、智慧、精霊、一切であることを信じて疑わないからだ。	7点
----	------------------------------------	----

問五	猫の前足を化粧道具にする人間の無神経さや残酷さを憎み、鋭い爪を持つ猫の前足に愛着を感じている。	10点
----	-------------------------------------------------	-----

問六	閉じた目蓋に、猫の快い重量、温かい蹠(足の裏)が感じられ、疲れた眼球に染み込んでくるような優しい感覚。	7点
----	-----------------------------------------------------	----

二 \* 30点 各3点

問一	a ② 意志	b ① 推量	各3点
----	--------	--------	-----

問二	i 自分では気がつかなくても、師匠にはそれがわかるのである。	ii 後でもう一度丁寧に学ぼうと心に決めている。
----	--------------------------------	--------------------------

問三	1 a なかれ 各2点	b いふ 各2点	c 何ぞ
	品 詞 形容詞 活用形 命令形	品 詞 動詞 活用形 終止形	2 難き 2点

問四	懈怠の心あることを知らんや	点
----	---------------	---

問五	① 弓の初心者は二本の矢を持つて的に向かっははいけない。それは初めの一本をおろそかにするからだ。これは何事にもいえる。 ② 人は先送りしがちで、今の一瞬に集中しない。今の一瞬を怠らす直ちに実行するのは難しいが大事なことだ。	5点
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

得点	点
----	---

令和5年度 入学者選抜

柴田学園大学 こども発達学科・フードマネジメント学科

一般選抜（前期）試験問題

# [ 英 語 ]

(令和5年2月4日)

(注意：各問の解答はすべて解答用紙に記入すること。)



**I** 次の英文を読み、質問に答えなさい。

The notion of *shokuiku* or food education has circulated widely in both Japan and America. When I grew up in New York, education through food was not a regular topic discussed at school. Today, (1) it is discussed daily at schools and in communities. In some farmers markets, you will find teaching booths ( 2 ) farmers or chefs educate children on food and eating.

Alice Waters, known for pioneering California cuisine is one of the prominent *shokuiku* practitioners and leaders of the organic food movement in the United States. She started a program ( 3 ) “The Edible Schoolyard” in Berkeley, California, in 1995. Its mission is to teach essential life skills and support academic learning through hands-on\* classes in the school’s spacious organic garden and the kitchen classroom. (4) The school also teaches students how their choices about food affect their health, the environment, and their communities.

Michelle Obama’s also vocal about her dedication to getting people to eat well and fight ever increasing obesity and lifestyle-related diseases in America.

Here in Japan, the Basic Law on Food Education was enacted in 2005. It defines *shokuiku* as the acquisition of knowledge about food as well as the ability ( 5 ) appropriate food choices.

However, I wonder to what extent people actually take action. My impression is ( 6 ) they don’t approach *shokuiku* consciously, as eating is part of daily life.

I have been practicing *shokuiku* through cooking lessons I offer to children of various ages. Through washing vegetables and cutting them, and breaking eggs and beating them, children’s curiosity about food and food production builds.

My oldest son ( 7 ) is turning 4 next month wasn’t really interested in ( 8 ). Until recently, I had difficulty getting him to eat. Although he seemed to be encouraged to eat better after grocery shopping or cooking with me, I found myself too busy and pressed for time to do that with him daily.

One day I served *kiriboshi daikon* salad and taught him what ingredients were in it and how they were prepared before I dished it up ( 9 ) he would know how much effort went into making one dish. I explained the drying process of daikon white radish, but he did not know how daikon grew. So I took out my smartphone and showed him a picture of daikon growing in the garden. “Wow, it’s in earth like the ants!” he said. Surprised at his unexpected response, I told him many winter vegetables grow underground ( 10 ) it’s cold outside.

Since then, he wants to know how things grow, and he started to eat without being told to. He really enjoys talking about food and now eats everything on his plate. My 1-year-old son on the other hand still has a long way to go, but I will continue to think of food related fun that we can have at the table.

On weekends (11) [ 私は食事の準備を子供たちとできるだけ一緒に用意するようにしている。 ] I have them wash vegetables and mix ingredients. Yes, they often make a big mess, and their attention span only lasts 10 minutes or less. But by starting from simple things like that, I believe they will gain skills, knowledge and appreciation for food.

Early childhood education differs child to child and it could be time consuming to figure out what works best for each child, but I’m sure it will pay off.

(12) When children reach about 10, they can think logically and make their own choices. This will be a great time to expose them to various cuisine and nutrition facts. Parents may want to consider sending them to cooking lessons as an option among other afterschool activities such as piano, swimming and English.

One of my future goals is to hold teen culinary classes\* in English, as I know it will broaden their knowledge about and experience with food.

\* hands-on: 体験型の

\* culinary class(es): 料理教室

Ema, Koeda. "Ema's Kitchen" Ashahi Weekly 3 Aug. 2014: 16.

1 本文中で使用されている次の単語の発音で、最も強く読むところを一つ選びなさい。

1. organic [or · gan · ic]

① ② ③

2. essential [es · sen · tial]

① ② ③

3. offer [of · fer]

① ②

4. ingredient [in · gre · di · ent]

① ② ③ ④

5. nutrition [nu · tri · tion]

① ② ③

2 本文中の(1)の it が意味するものを日本語で書きなさい。

3 本文中の(2)(6)(7)(9)(10)に入れるのに適したものを次の 1~5 より一つ選びなさい。

1. who

2. because

3. that

4. so

5. where

4 本文中の(3)(5)(8)に入れるのに適したものを次の 1~4 より一つ選びなさい。

(3) 1. call

2. called

3. to call

4. calling

(5) 1. make

2. made

3. to make

4. making

(8) 1. eat

2. ate

3. to eat

4. eating

5 本文中の(4)と(12)を日本語に訳しなさい。

6 本文中の(11)の日本語と同じ意味になるように次の英語を並べ替えなさい。

書き出しは大文字にし、文末にピリオドをつけること。

(11) 私は食事の準備を子供たちとできるだけ一緒に用意するようにしている。

[much / try / as / can / meals / I / prepare / to / children / with / as / I / my]

7 本文中の内容と一致するものを次の 1~5 より一つ選びなさい。

1. In Japan, the Basic Law on Food Education was established in 2020.
2. The author has been practicing shokuiku through lecturing at universities.
3. The author's oldest son really takes pleasure in talking about food nowadays.
4. Parents don't want their children to learn about food effect their health.
5. One of the author's purposes is to hold teen cooking classes in Japanese.

Ⅱ 下線部分の語句に最も近い意味をあらわすものを1～4より一つ選びなさい。

(1) These years, children have been learning how to operate computers.

1. run                      2. buy                      3. collect                      4. break

(2) She has such enthusiasm for tennis. I can't believe it.

1. knowledge              2. cruelty                      3. passion                      4. authority

(3) You're right when you say that she is kind.

1. wrong                      2. correct                      3. fearful                      4. stupid

(4) I haven't seen him recently.

1. lately                      2. once                      3. sometimes                      4. rarely

(5) He came across some wonderful information in his research.

1. retrieved                      2. borrowed                      3. supported                      4. found

Ⅲ 次の( )内に入れるのに適切なものを1～4より一つ選びなさい。

(1) The father ( ) his daughter not to play with the naughty boy.

1. said                      2. told                      3. talked                      4. spoken

(2) You ( ) look at the sun directly through a telescope.

1. don't have to              2. had better                      3. might as well                      4. must not

(3) I visited my uncle ( ) in the traffic accident last month.

1. injured                      2. injuring                      3. injure                      4. to injure

(4) The weather has been ( ) cloudy for the past week, with occasional light showers.

1. justly                      2. hardly                      3. mostly                      4. nearly

(5) When you cross the street, you cannot be ( ) careful.

1. how                      2. too                      3. at                      4. for

Ⅳ 各文の下線部分①～④より、誤りを一つ選びなさい。

(1) There are a lot of kid in the amusement park.

- ①    ②    ③                      ④

(2) They have done many research on the subject.

- ①    ②                      ③    ④

(3) Anne answered the questions more better than her classmates.

- ①    ②    ③                      ④

(4) I have a pet dog named Billy. I had had him for six years.

- ①                      ②                      ③                      ④

(5) Yesterday she had cut her figure, so she's going to see the doctor today.

- ①                      ②                      ③                      ④

Ⅴ 次の対話文の( )に入れるのに適したものを1~4より一つ選びなさい。

(1) A: I'm sorry to have kept you ( ) for a long time.

B: Never mind.

1. wait                      2. waited                      3. to wait                      4. waiting

(2) A: ( ) you were absent from school yesterday?

B: I had a terrible cold.

1. How come                      2. How about                      3. When                      4. Why

(3) A: What do you think is the most precious thing in your life?

B: Nothing is as ( ) as love.

1. precious                      2. the precious                      3. more precious                      4. most precious

(4) A: Franklin is moving to New York.

B: ( ) will make everyone sad.

1. He leaves                      2. He leaving                      3. For his leaving                      4. His leaving

(5) A: Why did you only stay a week in Los Angeles?

B: If I ( ) more time, I would have stayed longer.

1. have                      2. had                      3. had had                      4. would have

Ⅵ 次の会話文の(1)~(5)入れるのに適したものを①~⑧より選びなさい。ただし、選択肢には使用しないものも含まれています。

A: Hi, Stela. I need your advice.

B: Sure, Vivian. ( 1 )

A: I am going to be taking care of my three-year-old nephew on Sunday. What do you think I should do with him?

B: Hmm ... if I were you, I'd plan something outdoors. It's supposed to be nice weather, and children that age love to run around.

A: Good idea. ( 2 ) Do you have any suggestions?

B: ( 3 ) There are a lot of swings and other play equipment.

A: Thanks, I'll try that. I've never been there, though.

B: ( 4 ) And if you get hungry or thirsty, you can go to the family restaurant across the street. It has a good kids' menu.

A: Thanks for your advice. You really know a lot about taking care of children, Stela.

B: I'm the oldest in a family of four children. ( 5 )

① I was very sad.

⑤ I have a lot of experience!

② It's a lot of fun.

⑥ What's up?

③ I'm not sure where to go, though.

⑦ He was excited.

④ She is starving.

⑧ How about going to Yayoi Park?

# 柴田学園大学

令和5年度 入学者選抜 一般選抜（前期） [英語] 解答用紙 令和5年2月4日実施

学科名	こども発達 フードマネジメント ※学科名に○をすること
受験 番号	

I 1 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ 5 \_\_\_\_\_

2 (1) \_\_\_\_\_

3 (2) \_\_\_\_\_ (6) \_\_\_\_\_ (7) \_\_\_\_\_ (9) \_\_\_\_\_ (10) \_\_\_\_\_

4 (3) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_ (8) \_\_\_\_\_

5 (4) \_\_\_\_\_

(12) \_\_\_\_\_

6 (11) \_\_\_\_\_

7 \_\_\_\_\_

I 得点	
---------	--

II (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

II 得点	
----------	--

III (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

III 得点	
-----------	--

IV (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

IV 得点	
----------	--

V (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

V 得点	
---------	--

VI (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

VI 得点	
----------	--

総合 得点	
----------	--

点

# 柴田学園大学

令和5年度 入学者選抜 一般選抜 (前期) [英語] 解答用紙 令和5年2月4日実施

学科名	こども発達 フードマネジメント ※学科名に○をする事
受験 番号	

I 1 1 2 2 2 3 1 4 2 5 2

2 (1) 食べ物を通しての教育 (食育でも可) \_\_\_\_\_

3 (2) 5 (6) 3 (7) 1 (9) 4 (10) 2

4 (3) 2 (5) 3 (8) 4

5 (4) 学校ではまた生徒たちに食べ物の選択が彼らの健康や、環境そして地域社会にいかに関与を与えるか教える。 \_\_\_\_\_

(12) 子どもたちは10歳くらいになると、論理的に考え、そして自分自身の選択をできるようになる。 \_\_\_\_\_

6 (11) I try to prepare meals with my children as much as I can. \_\_\_\_\_

7 3

I 得点	
---------	--

II (1) 1 (2) 3 (3) 2 (4) 1 (5) 4

II 得点	
----------	--

III (1) 2 (2) 4 (3) 1 (4) 3 (5) 2

III 得点	
-----------	--

IV (1) 3 (2) 2 (3) 3 (4) 2 (5) 1

IV 得点	
----------	--

V (1) 4 (2) 1 (3) 1 (4) 4 (5) 3

V 得点	
---------	--

VI (1) 6 (2) 3 (3) 8 (4) 2 (5) 5

VI 得点	
----------	--

総合得点	
点	

# 令和5年度 入学者選抜

## 柴田学園大学

こども発達学科・フードマネジメント学科

### 一般選抜（後期）試験問題

# [ 国 語 ]

（令和5年3月7日）

注意 ① 各問の解答はすべて解答用紙に記入すること。  
② 各問の解答は試験後回収するので、持ち帰らないこと。



□ 次の文章を読んで、それぞれの問いに答えよ。

私に親しいある老科学者がある日私に次のようなことを語って聞かせた。

「科学者になるには『あたま』がよくなくてはいけない。」これは普通世人の口にする一つの\*命題である。これはある意味では本当だと思われる。しかし、一方でまた「科学者はあたまが悪くなくてはいけない」という命題も、ある意味ではやはり本当である。そうしてこの後の方の命題は、それを指摘し解説する人が比較的少数である。

この一見①相対する二つの命題は実は一つのものの互いに対立し共存する一つの半面を表現するものである。②この見掛け上のパラドックスは、実は「あたま」という言葉の内容に関する定義の曖昧不鮮明から生まれることはもちろんである。

論理のまじりのただ一つの環をも取失わないように、また混乱の中に部分と全体との関係を見失わないようにするためには、正確でかつ緻密な頭脳を要する。紛糾した可能性の隘路に立つたときに、取るべき道を誤らないためには前途を見透す内察と\*直観の力を有たなければならない。すなわちこの意味ではたしかに科学者は「あたま」がよくなくてはならないのである。

しかしまた、普通にいわゆる常識的に分かり切ったと思われることで、そうして、普通の意味でいわゆるあたまの悪い人にも容易にわかったと思われるような尋常\*茶飯事の中に、何かしら不可解な疑点を認めそうしてその\*闡明に苦吟するというのが、単なる科学教養者にはとにかく、科学的研究に従事する者には真に一層重要必須なことである。この点で科学者は、普通の頭の悪い人よりも、もつともつと物分りの悪い呑込みの悪い田舎者であり\*朴念仁でなければならない。

いわゆる頭のいい人は、いわば脚の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かない処へ行き着くことも出来る代りに、途中の道傍あるいはちよとした脇道にある肝心なものを見落とす恐れがある。頭の悪い人、脚ののろい人がずっと後からおくれて来て訳もなくその大事な宝物を拾って行く場合がある。

頭のいい人は、いわば富士の\*御嶽まで来て、そこから頂上を眺めただけで、それで富士の全体を呑込んで東京へ引返すという心配がある。富士はやはり登ってみなければ分からない。

頭のいい人は見通しが利くだけに、あらゆる道筋の前途の難関が見渡される。少なくとも自分でそういう気がする。そのためややもすると前進する勇氣を\*温養しやすい。頭の悪い人は前途に霧がかかっているために却って楽観的であ

る。そして難関に出遭つても存外どうにかしてそれを切抜けていく。どうにも抜けられない難関というのは極めて稀だからである。

それで、研学の徒はあまり③頭のいい先生にうっかり助言を乞うてはいけない。きつと前途に重畳する難関を一つ一つ\*風潰しにロイヤリティされて、そして自分のせつかく楽しみにしている企図の絶望を宣告されるからである。委細構わず着手してみると存外指摘された難関は案に始末が付いて、指摘されなかつた意外な難点に出達つともある。

頭のよい人は、あまりに多く頭の力を過信する恐れがある。その結果として、自然がわれわれに表示する現象が自分の頭で考えたことと一致しない場合に、「自然の方が間違っている」かのように考える恐れがある。まあかそれほどなくとも、そういったような傾向になる恐れがある。①「これでは自然科学は自然の科学でなくなる。一方でまた自分の思つたような結果が出たときに、それが実は思つたとは別の原因のために生じたラヴゼンの結果でありはしないかという可能性を咀嚼する」という大事な仕事を忘れる恐れがある。

頭の悪い人は、頭のいい人が考えて、はじめから駄目にきまつているような試みを、一生懸命につづけている。やつとそれが駄目と分かる頃には、しかし大抵何かしら駄目でない他のもの糸口を取り上げている。そしてそれは、そのはじめから駄目な試みをあえてしなかつた人には決して手に触れる機会のないような糸口である場合も少なくない。自然は書卓の前で手を束ねて空中に画を描いている人からは逃げ出して、自然の真中へ赤裸で飛び込んで来る人へのみその神秘の扉を開いて見せるからである。

頭のいい人には恋が出来ない。恋は盲目である。科学者になるには自然を恋人としなければならない。自然はやはりその恋人にのみ真心を打明けるものである。

科学の歴史はある意味では錯覚と失策の歴史である。偉大なる\*迂愚者の頭の悪い能率の悪い仕事の歴史である。

②頭のいい人は批評家に適するが行為の人にはなりにくい。すべての行為には危険が伴うからである。怪我を恐れる人は大工にはなれない。失敗を怖がる人は科学者にはなれない。科学もやはり頭の悪い命知らずの死骸の山の上に築かれた殿堂であり、血の河の畔に咲いた花園である。一身の利害に対して頭がよい人は戦士にはなりにくい。

頭のいい人には他人の仕事のあらが眼につきやすい。その結果として自然に他人のする事が愚かに見え、従つて自分が誰よりも賢いというような錯覚に陥りやすい。そうなるも自然の結果として自分の向上心に弛みが出て、やがてその人の進歩が止つてしまう。頭の悪い人には他人の仕事が大抵みんな立派に見えると同時にまたえらい人の仕事でも自分にも出来そうな気がするので、おのすから自分の向上心を刺戟されるということもあるのである。

頭のいい人で人の仕事のあらは分かるが自分の仕事のあらは見えないという程度の人がある。そういう人は人の仕事をくさしながらも自分で何かしら仕事をして、そして学界に幾分の貢献をする。しかしもう一層頭がよくて、自分の仕事のあらも見えないという人がある。そういう人になると、どこまで研究しても結果が付かない。それで結局研究の結果を纏めないで終る。すなわち何もしなかつたのと、dジツシヨウ的な見地からは同等になる。そういう人は何でも分

かっているが、ただ「人間は過誤の動物である」という事実だけを忘却しているのである。一方ではまた、大小方円の見さかひも付かないほどに頭が悪くおかげで大胆な実験をし、大胆な理論を公にし、その結果として百の間違いの内に一つ二つの真を見付け出して学界に何かしかの貢献をし、また誤って大家の名を博する事さえある。しかし科学の世界ではすべての間違いは泡沫のように消えて真なもののみが生き残る。それで何もしない人よりは何かした人の方が科学に貢献する訳である。

頭のいい学者はまた、何か思い付いた仕事があつた場合にも、その仕事が結果の価値という点から見るとせつかく骨を折つても結局大した重要なものになりそうもないという見込みをつけて着手しないで終る場合が多い。しかし頭の悪い学者はそんな見込みが立たないために、人からは極めてつまらないと思われる事でも何でも、我武者らに仕事に取付いて臆目もふらずに進行して行く。そうしているうちに、初めには予期しなかつたような重大な結果に打つかる機会も決して少なくはない。この場合にも頭のいい人は人間の頭のを買い被つて天然の\*無際涯な興行を忘却するのである。科学的研究の結果の価値はそれが現われるまでは大抵誰にも分からない。また、結果が出た時には誰も認めなかつた価値が十年百年の後に初めて認められることも珍しくはない。

頭がよくて、そして、③自分を頭がいいと思ひ利口だと思ふ人は先生にはなれても科学者にはなれない。人間の頭の方の限界を自覚して大自然の前に愚かな赤裸の自分を投げ出し、そしてただ大自然の直接の教えにのみ傾聴する覚悟があつて、初めて科学者にはなれるのである。しかしそれだけでは科学者にはなれない事ももちろんである。やはり観察と分析と推理の正確周到を必要とするのはいうまでもないことである。

つまり、頭が悪くと同時に頭がよくなくてはならないのである。

この事実に対する認識の不足が、科学の正常なる進歩を阻害する場合がしばしばある。これは科学にたずとるほとんどの人々の、シンチヨウな省察を要することと思われる。(後略) (寺田貞彦「科学者とあたま」による)

- \* 命題 一つの判断内容を「AはBだ」のような形で表したものを。課せられた問題。
- \* 直観 推理など論理的判断によらず、ただちに対象の本質を見抜くこと。
- \* 茶飯事 ごくありふれたこと。
- \* 闡明 はつきりしていなかつた道理や意義を明らかにすること。
- \* 朴念仁 言葉少なく無慈悲な人。道理のわからない者。
- \* 沮喪 気力がくじけて元気がすっかりなくなること。
- \* 虱潰し 物事を片端から残らず調べる(片付ける)こと。
- \* 迂愚者 おろかな者。
- \* 無際涯 かぎりのないこと。

- 問一 1. 二重傍線部 a ㄷ e のカタカナを漢字で書きなさい。  
2. 二重傍線部 1 ㄷ v の漢字によみがなをつけなさい。

- 問二 1. 太線部 ①「相反する二つの命題」とは何か。それぞれ示しなさい。  
2. 太線部 ②「この肩掛け上のパレドックス」は文中でどのように説明されているか。  
3. 太線部 ③「頭のいい先生にうっかり助言をうたってはいけない」理由を述べなさい。

問三 波線部 ①「これでは自然科学は自然の科学でなくなる」とは、どういう意味か説明しなさい。

問四 波線部 ②「頭のいい人は批評家に適するが行為の人にはなりにくい」理由を具体的に示しなさい。

問五 波線部 ③「自分を頭がいいと思ひ利口だと思ひ人は先生にはなれても科学者にはなれない」根拠をわかりやすく述べなさい。

□ 次の文は『徒然草』(第五十二段)の文章である。それぞれの問に答えよ。

\*仁和寺にある法師、年寄るま<sup>にんなんら</sup>まで、\*石清水を拝ま<sup>いはしみづ</sup>ざりければ、\*心く<sup>まご</sup>覚えて、ある時思ひ立ちて、ただ一人

徒歩よりま<sup>か</sup>つだけり。\*極楽寺・高良などを①<sup>こくらく</sup>拝みて、①<sup>たかくら</sup>かばかりと心得て帰りにけり。さて、\*かたぐの人にあひて

「五年の思ひつゝるごとく果だし侍りぬ。聞きしにも過<sup>たご</sup>ぎて、尊くこそおはし②<sup>たご</sup>けれ。そも参りたる人ごとくは出く登

りしは、②<sup>まご</sup>何事がありけん。\*ゆかしかりしかど、伸く参るるこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。

すしのことにも、\*先達<sup>せんたつ</sup>はあらまほしき事なり。

\*仁和寺にある法師 仁和寺にいたる法師。

\*石清水 石清水八幡宮のこと。

- \*心づく覚えて                      残念に思つて。
- \*極楽寺・高良                      石清水八幡宮に付属する極楽寺と高良神社。神仏混交の時代には大きな神社に付属して境内に寺があつた。極楽寺も八幡宮の宮寺の一つ。
- \*かたぐの人にあひて              傍の人(同僚)に向かつて。
- \*ゆかしかりしかど              見たくはあつたけれど。
- \*先達                                  案内者。

問一 太線部 a 「まで」、b 「こそ」はどんな助詞ですか。①～④から選びなさい。

- ①接続助詞    ②格助詞    ③副助詞    ④係助詞

- 問二
1. 波線部Ⅰ～Ⅱの部分を口語訳しなさい。
  2. 二重傍線部①「かばかりと心得て」を具体的に説明しなさい。
  3. 二重傍線部②「何事かありけん」と思つた理由を述べなさい。

問三 傍線部①「拝み」、傍線部②「けれ」の品詞と活用形をそれぞれ答へなさい。

- ④ なし → 形容詞・終止形

問四 石清水八幡宮とそれに付属する極楽寺・高良(神社)との位置関係を簡単に説明しなさい。

問五 この段で作者が伝えようとしたこと(主題)は何か。また話のおかしさは何か。

国 語 解 答 用 紙

柴田学園大学

科目 ○ 印	こども発達 フォーマット シメント
学 科	験 号 受 番

Ⅰ \* 70点

問一 1

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

各 2 点

2

i	ii	iii	iv	v
---	----	-----	----	---

各 3 点

問二 1

--	--

各 4 点

2

--

6 点

3

--

6 点

問三

--

8 点

問四

--

8 点

問五

--

9 点

Ⅱ \* 30点

問一

a	まで	b	こそ
---	----	---	----

各 2 点

問二 1

i	ii
---	----

各 3 点

2

--

3

--

各 3 点

問三 ①「拝み」

品 詞	活用形
-----	-----

各 1 点

②「けれ」

品 詞	活用形
-----	-----

各 1 点

問四

--

4 点

問五

〈主 題〉
〈おかしさ〉

6 点

得 点	点
-----	---

学 科 ○ 印	こども発達 フォーマット
受 番	験 号

㊦ \* 70 点

- 問一 1 a 連鎖 b 枚挙 c 偶然 d 実証 e 慎重 各 2 点
- 2 i きろ ii すその iii ぎんみ iv とびら v おちい 各 3 点
- 問二 1 科学者になるには『あたま』がよく  
なくてはならない。 科学者はあたまが悪くなくては  
いけない。 各 4 点
- 2 一つのもの互いに対立し共存する二つの半面を表現するもの。 6 点
- 3 前途に重畳する難関を一つ一つ風潰しに枚挙されて、自分のせつかく楽しみに  
している企図の絶望を宣告されるからである。 6 点
- 問三 自然が表示する現象が頭で考えたことと一致しないとき、「自然の方が間違っ  
ている」と考えるのは、科学的(実証的・論理的・体系的)ではない。 8 点
- 問四 すべての行為には危険が伴う。怪我を恐れる人は大工になれないし、  
失敗を怖がる人は科学者になれない。 8 点
- 問五 科学者には、自分の頭の限界を自覚して大自然の前に愚かな自分を投げだし、  
ただ大自然の教えにのみ傾聴する覚悟が必要になること。 9 点

㊦ \* 30 点

- 問一 a まで (A) bこそ (B) 各 2 点
- 問二 1 i した。一人徒歩で参詣(お参り) 各 3 点  
ii 長年、願っていたことを成し遂げ  
ました(果たしました)。
- 2 石清水八幡宮は自分が参詣した寺社 各 3 点  
(極楽寺・高良神社)だけだと思い  
込んでしまった。
- 3 参詣(お参り)の人がみんな山の上  
気になつたから。たのは、なぜかと
- 問三 ①「拝み」 各 1 点  
品 詞 動 詞 活用形 連用形
- ②「けれ」 各 1 点  
品 詞 助 動 詞 活用形 已然形
- 問四 石清水八幡宮は山の上であり、極楽寺・高良神社はふもとにある。  
(法師は石清水八幡宮は極楽寺・高良神社だけだと思っていた) 4 点
- 問五 〈主 題〉 ちよつとしたことにも案内(指導)者はほしいもの。 6 点  
〈おかしさ〉 間違いであったことを本人が知らずに、わかつた  
ようなふりをして得意気に語っている様子。

点
得 点

令和5年度 入学者選抜

柴田学園大学 こども発達学科・フードマネジメント学科

一般選抜（後期）試験問題

# [ 英 語 ]

（令和5年3月7日）

（注意：各問の解答はすべて解答用紙に記入すること。）



I 次の英文を読み、質問に答えなさい。

Spring is the season of sad goodbyes and new beginnings in Japan. For many young people, it's the start of a new chapter in life.

March is ( 1 ) students either graduate or prepare to advance to the next grade, enter university or begin their careers. April marks the beginning of a new school semester or, for many, the start of a new life at university or work.

First graders carry their brand-new *randoseru* (knapsacks) filled with pencils, notebooks and other school items. Schools distribute new textbooks to the students for them to keep.

In the United States, I remember going to Japanese supplementary school\* on weekends, known as *hoshuukou*. The textbooks that were distributed were mine to keep. It was OK to write your name in the books as well as highlight or underline parts of the book that were important to remember or that might come up on a test. (2) [ほとんどすべての私の日本語の教科書はソフトカバーだった。], so usually by the end of the semester they were very well loved\*.

The new school term starts in September in the United States, most commonly after the Labor Day holiday, ( 3 ) nowadays many schools have been starting classes in late August. Along with the beginning of the school year, many stores have "back to school" sales. Parents buy new backpacks, shoes, clothes and school supplies for their children. Just like Japan, most students start the school year with new outfits and gear.

However, when it comes to textbooks, things are a bit different between the two countries.

In most public schools in America, textbooks are distributed at the beginning of the school year and collected at the end of the year. These books are mostly hardcover and can be quite heavy. (4) I vividly remember carrying these textbooks to and from school every day. Sometimes it felt as though my knapsack was filled with rocks!

( 5 ) the books are used year after year, (6) it is generally required that they be covered so that they do not get damaged. In my school days many years ago, thick brown paper, often taken from grocery store bags, was used ( 7 ) schoolbooks.

Students had to sign their name on a card inside of the book. But you were not allowed to write in the textbook, tear out pages or damage it in any way. At the end of the year the books need to be in near-pristine condition\*, and if they were damaged, a penalty could be applied.

I heard from a friend ( 8 ) has a daughter at the same school I attended that now, in order for students to get their school yearbooks, they must first return all textbooks borrowed throughout the year.

In some school districts, students even receive two sets of textbooks. To avoid the practice of lugging heavy hardcover books back and forth every day, one set is left at home and the other is kept at school. With tight school budgets, though, this is obviously a less common practice.

The textbooks ( 9 ) by schools are generally published within the last few years. They are re-used until a new edition is issued or the curriculum is changed.

( 10 ) public schools, some private schools require students to purchase their textbooks, meaning they can keep the books.

I asked some of my friends with children ( 11 ) U.S. schools about the use of textbooks these days, and (12) I learned that some elementary schools are using fewer and fewer textbooks. My friend's son,

who is currently in the fifth grade, has zero textbooks! Everything is in-class learning, and a lot of material has gone online. Some schools have moved away from textbooks to save money, and students go online to get the information needed for class.

Lots of schools have gone digital. Devices such as iPads are handed out at the beginning of the year, and all of the texts that are needed for the curriculum can be accessed electronically. But some schools still use textbooks, often in conjunction with digital learning aides.

Japan still seems to be relying on the traditional analog system, but we are starting to see some changes. My son's international school employs digital learning. Maybe one day digital textbooks will become more common in Japan like they are in the United States.

\*Japanese supplementary school: (海外に開設される) 日本人補習授業校

\*(be) very well-loved: 使い込まれている \*near-pristine condition: ほぼ未使用な状態

Risa, Stegmayer. "Risa's Journal 『クロスカルチャーな毎日』" Asahi Weekly 11 Mar. 2018: 14.

① 本文中で使用されている次の単語の発音で、最も強く読むところを一つ選びなさい。

1. advance [ ad · vance ]

2. distribute [ dis · trib · ute ]

① ②

① ② ③

3. obviously [ ob · vi · ous · ly ]

4. information [ in · for · ma · tion ]

① ② ③ ④

① ② ③ ④

5. digital [ dig · it · al ]

① ② ③

② 本文中の(1)(3)(5)(8)(10)に入れるのに適したものを次の 1~5 より一つ選びなさい。ただし、文頭にくるものも小文字で示しています。

1. unlike

2. who

3. although

4. when

5. since

③ 本文中の(2)の日本語と同じ意味になるように次の英語を並べ替えなさい。書き出しは大文字にし、文脈の都合上、文末にピリオドはつけないこと。

(2)ほとんどすべての私の日本語の教科書はソフトカバーだった。

[ were / all / my / softcover / textbooks / almost / of / Japanese ]

④ 本文中の(4)(12)を日本語に訳しなさい。

⑤ 本文中の(6)の it が意味するものを日本語で書きなさい。

⑥ 本文中の(7)(9)(11)に入れるのに適したものを次の 1~4 より一つ選びなさい。

(7) 1. cover

2. covered

3. to cover

4. covering

(9) 1. provide

2. provided

3. to provide

4. providing

(11) 1. attend

2. attended

3. to attend

4. attending

7 本文中の内容と一致するものを次の1～5より一つ選びなさい。

1. April marks the beginning of a new school semester in the United States.
2. As for textbooks, there are no difference between Japan and America.
3. Textbooks are distributed and collected in most public schools in the United States.
4. A lot of schools in America haven't gone digital because of tight school budgets.
5. Digital textbooks seem to be very popular in most schools in Japan.

Ⅱ 下線部分の語句に最も近い意味をあらわすものを1~4より一つ選びなさい。

(1) They went over the house before deciding whether to buy it.

1. cleaned                      2. bought                      3. matched                      4. inspected

(2) As a rule she only reads love stories.

1. Astonishingly              2. Politically              3. Usually                      4. Dramatically

(3) The traffic accident held up the cars last night.

1. hastened                      2. delayed                      3. fought                      4. costed

(4) The car pulled up in front of his house.

1. stopped                      2. roared                      3. crushed                      4. started

(5) A doctor usually wears a white uniform when on duty.

1. standing                      2. wearing                      3. working                      4. sitting

Ⅲ 次の ( ) 内に入れるのに適切なものを1~4より一つ選びなさい。

(1) I could tell she was only ( ) to read, because her book was upside down.

1. pretending                      2. doubting                      3. delivering                      4. sleeping

(2) He is considering ( ) abroad to study next year.

1. go                              2. going                      3. to go                      4. to be going

(3) Julia said that she found the movie very ( ).

1. amuse                      2. amused                      3. amusingly                      4. amusing

(4) If you want your documents typed by tomorrow, you should ask Ana. She makes ( ) mistakes than anyone else in the office.

1. none                      2. little                      3. fewer                      4. few

(5) The scene he saw in the country was ( ) belief.

1. behind                      2. below                      3. beneath                      4. beyond

Ⅳ 各文の下線部分①~④より、誤りを一つ選びなさい。

(1) The railway company now has a service that allows passengers to check on over the Internet.

- ①                      ②                      ③                      ④

(2) The bank did not spend too many money to open their new branch in a nearby town.

- ①                      ②                      ③                      ④

(3) The petty cash should counted and locked in the safe before the owner leaves the store.

- ①                      ②                      ③                      ④

(4) Betty was the first employee in her office to has reached the monthly sales quota.

- ①                      ②                      ③                      ④

(5) Those whom invest in the stock market nowadays are taking a big risk.

- ①                      ②                      ③                      ④

V (1)～(5)の対話文の ( )に入れるのに適したものを1～4より一つ選びなさい。

(1) "What did you do yesterday?"

"I watched TV, practiced the piano, and ( ) my homework."

1. do                                      2. did                                      3. done                                      4. had done

(2) "Have you ever played lacrosse?"

"Yes. We ( ) all the time when I was in high school."

1. would have played    2. could have played    3. used to play    4. used to do

(3) "Why are you in a hurry, Olivia?"

"That traffic jam ( ) be late."

1. made me                                      2. caused me                                      3. had me to                                      4. forced me

(4) "Have you decided which tree to plant—the dogwood or the pine?"

"Of the two, I think the dogwood is ( )."

1. the hardiest                                      2. the hardier                                      3. hardest                                      4. a hardy

(5) "It's beginning to rain."

"That's too bad. ( ), we won't be able to go to the flower gardens."

1. If it stops                                      2. If it didn't stop                                      3. Should it stop                                      4. Unless it stops

VI 次の会話文の(1)～(5)に入れるのに適しものを①～⑧より選びなさい。ただし、選択肢には使用しないものも含まれています。

Stacy: I will travel to New York this summer.

Danny: Really? [ (1) ]

Stacy: Where do you recommend?

Danny: [ (2) ]

Stacy: Why?

Danny: The night view from there is awesome.

Stacy: [ (3) ]

Danny: How about the Metropolitan Museum of Art? [ (4) ]

Stacy: Wow, they sound interesting.

Danny: [ (5) ]

① Where else?

⑤ You can see a lot of famous paintings and sculptures.

② I was very excited.

⑥ I went there last year.

③ You must go to the Statue of Liberty.

⑦ Where did you buy the ticket?

④ You can enjoy swimming.

⑧ You must visit these places.

# 柴田学園大学

令和5年度 入学者選抜 一般選抜（後期） **[英語]** 解答用紙 令和5年3月7日実施

学科名	こども発達 フードマネジメント ※学科名に○をする事
受験番号	

I I 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ 5 \_\_\_\_\_

2 (1) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_ (8) \_\_\_\_\_ (10) \_\_\_\_\_

3 (2) \_\_\_\_\_

4 (4) \_\_\_\_\_

(12) \_\_\_\_\_

5 (6) \_\_\_\_\_

6 (7) \_\_\_\_\_ (9) \_\_\_\_\_ (11) \_\_\_\_\_

7 \_\_\_\_\_

I 得点	
---------	--

II (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

II 得点	
----------	--

III (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

III 得点	
-----------	--

IV (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

IV 得点	
----------	--

V (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

V 得点	
---------	--

VI (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_

VI 得点	
----------	--

総合得点	
	点

# 柴田学園大学

令和5年度 入学者選抜 一般選抜（後期） **[英語]** 解答用紙 令和5年3月7日実施

学科名	こども発達 フードマネジメント ※学科名に○をする事
受験番号	

I 1 1 2 2 2 2 3 1 4 3 5 1

2 (1) 4 (3) 3 (5) 5 (8) 2 (10) 1

3 (2) Almost all of my Japanese textbooks were softcover

4 (4) 私はこれらの教科書（テキストでも可）を毎日登下校の際に持ち歩いたことをはっきりと覚えている。

(12) 私は小学校によっては教科書の使用をますます減らしているということを知った。

5 (6) 教科書（テキストでも可）が損傷しない（傷つかない/ダメージを受けない、でも可）ようカバーをつけること。

6 (7) 3 (9) 2 (11) 4

7 3

I 得点	
---------	--

II (1) 4 (2) 3 (3) 2 (4) 1 (5) 3

II 得点	
----------	--

III (1) 1 (2) 2 (3) 4 (4) 3 (5) 4

III 得点	
-----------	--

IV (1) 4 (2) 2 (3) 2 (4) 3 (5) 1

IV 得点	
----------	--

V (1) 2 (2) 3 (3) 1 (4) 2 (5) 4

V 得点	
---------	--

VI (1) 6 (2) 3 (3) 1 (4) 5 (5) 8

VI 得点	
----------	--

総合得点	点
------	---